



2023年6月16日

各位

会社名 株式会社 plus zero  
代表者名 代表取締役会長兼 CEO 小代義行  
(コード番号: 5132 東証グロース)  
問合せ先 取締役 CFO 浅川耀佑  
(TEL. 03-6407-0212)

## 2023年10月期第2四半期決算に関するQ&A及び決算説明動画公開のお知らせ

2023年6月14日に公表した当社の2023年10月期第2四半期決算に関しまして、公表以降に株主様、投資家様などの方々から頂戴したお問合せ、ご質問等に関しまして、その内容と回答を下記のとおりお知らせいたします。

なお、本開示は、市場参加者の皆様のご理解を一層深めることを目的に当社が自主的に実施するものであります。決算内容の詳細につきましては、末尾<ご参考>に記載しております決算短信及び決算説明資料をご覧ください。

記

### 2023年10月期第2四半期決算説明会動画

	発表者	視聴 URL
第1回決算説明	代表取締役会長兼 CEO 小代義行	<a href="https://youtu.be/sWyERq1jTqY">https://youtu.be/sWyERq1jTqY</a>
第2回決算説明	代表取締役社長兼 COO 森遼太	<a href="https://youtu.be/5WkK_gp0SUs">https://youtu.be/5WkK_gp0SUs</a>

※いずれもプレゼンターは異なりますが、内容は同一のものとなります。

#### Q1. 米国企業との提携をする予定はございますか。

提携に関しては、米国を対象外にしているわけではございません。AEI 自体は英語にも対応できると考えており、事業展開・状況によって、特定の会社と組むことで事業が加速するのであれば、検討してまいります。

#### Q2. 今後の目標株価を教えてくださいませんか。

現時点で、目標株価自体は持っていません。一方で業績予想・中期の経営目標を目指すことをとおしてそれに見合う株価がついてくるようになればと考えております。

#### Q3. PoC 売上と PoC を終了しサービスインしている売上の比率をお教えてください。また、PoC からサービスインに至る平均的な期間、割合なども可能でしたらお教え下さい。

PoC の具体的な比率は開示しておりません。また、今後開示することに関しても検討はしておりません。一方で、当社に関しては PoC で終わる案件は少ないと認識しております。PoC が始まる前の段階から顧客と十分に検討をしており、顧客の経営インパクトを検討し、インパクトがあるものしか実施していない状況でございます。具体的な案件等の中身を開示するニーズがあることは認識いたしましたので、今後の開示等は検討してまいります。

**Q 4. 着実に収益を増やしているが、成長ペースが急伸するには、何が必要で、それは何がトリガーになりそうでしょうか。**

第2四半期決算説明資料のP8をご参照いただきますと、AEIに関しては、8~9期に予定している「他分野・業界への初期導入時の設定」の自動化率が上がっていくと対象のサービスが急拡大していくと考えております。

また、当社への追い風として、当社想定よりもChatGPTが市場に普及しており、言語や思考を使うAIが賢くなると市場が認識し始めている。ChatGPTを活用することによって、開発が加速する側面があると認識しております。

**Q 5. プライム市場上場、配当金などはどのような方針でしょうか？**

現時点では、計画にはございません。配当金に関しては、株主の皆様へ最大のリターンが生まれるシナリオを検討している。獲得したキャッシュフローを千載一遇のチャンスであるAEIに再投資するのか、それとも配当をするのか、どちらが株主のトータルリターンが最大化するかによって常に検討は行っております。

**Q 6. 説明会を2回実施している理由を教えてください。**

予定が合わない方に向けて2回開催しております。また、代表取締役会長の小代と代表取締役社長の森に関しては、それぞれ得意領域が異なることから、それぞれの代表から説明を行うことで、皆様の理解が深まる側面があるかと認識しております。

**Q 7. 他のAI企業等と比べた時の強みを教えてください。**

AEIと認識しております。簡潔に申し上げますと、ChatGPTを中心とした大規模言語モデルの時代となっているが、ディープラーニング中心の技術であり、技術的に中身が見えないブラックボックスになっている。AEIはブラックボックスになっている部分が見える化できるようになっている。AEIは信頼性が求められる部分（ITの運用保守、ハードウェアの運用保守等）に対して、信頼性を担保することによってAIを導入していけるのが最大の差別化ポイントとなる。汎用的な特許を取得しており、先行優位性がある。また、人材として優秀な人材を確保できており、差別化の要因となっていると認識しております。

**Q 8. 2Qの営業利益率が16%に下がった理由をもう少し具体的にご説明していただけませんか。**

当事業年度の目標が18%となっており、特定の案件で原価率の問題、区切りのタイミングで1Qの着地が良かった点等がある。特段2Qが悪かったわけではなく、季節性の中で波が生じている状況でございます。

**Q 9. 日本にも多くのAI新興AI企業がありますが、それらと大きく異なる強みなどあれば教えてくださいませんか？**

現状の状況として、ChatGPTを産業適用しようというところが主戦場になっていると認識しております。一方で、信頼性が求められる場面では、ChatGPTの産業適用は信頼性の観点から、難しいと考えており、直接的に競合にはならないと認識しております。言語系で賢いものを展開していくという市場全体でみると、広い意味では競合に当たるが特定の市場でいうと競合にはならないと考えている。

**Q 10. 株式会社アピストとの共同で開示したIRの件について、他社に販売できるところまで製品レベルが達したということでしょうか。実際に他社にも販売を開始する予定なのでしょうか。**

パートナーがいる話であり、当社のみでの判断ではお答えできません。一部のテスト自体は自動実行できているので、それをどう切り出して販売するかは戦略次第だと認識しております。

Q11. AEI に関して、1Q の資料と契約締結済みの金額の割合を比較すると減少しているが、当該理由について教えていただきたいです。

自動更新がある条項が一部あり、1Q のタイミングではそれを含んでいたが、自動更新が切れるタイミングで、顧客と協議する中で、増額はされたものの決算発表のタイミングに契約締結が間に合わず、数値上は減少する形になりました。

Q12. OpenAI の社長が来日してますが面会予定はありますでしょうか？

面会の予定はございません。

Q13. ChatGPT が出てきている今、御社の 2026 年という目標は遅いとは感じないでしょうか？

2026 年に関しては、遅くないと考えております。ChatGPT が解決できる問題は今後 3 年間で解決し続けても十分にあると考えております。また、資金や計算リソースで解決できる領域ではないと考えております。

Q14. ChatGPT を活用したサービスを提供する会社が増えている中、ChatGPT 関連の戦略はどのように考えておられますでしょうか？

ChatGPT をそのまま利用するビジネスは短期的には面白い領域ではあるが、そこに注力しても長期的な競争優位性は確保できないと考えております。

Q15. 機関投資家の面談回数、日本と海外、どれくらいの数こなされていますか？

明確な件数は記録しておりませんが、代表の小代と森で分担しており、毎週数件やっているペースでございます。海外の投資家の方とも面談をしており、海外に関してはおおよそ 5 件程度でございます。

Q16. 取引先、協業先の発表に関して、具体的な社名が難しい場合でも、「こんなことをしている会社」程度の情報を開示していただくことは難しいか。

パートナーのご都合等もあるため難しい部分もございますが、なるべく開示できるものは開示していきたいと考えております。開示可能なものから順次開示していければと考えております。業務提携先としては、大企業からスタートアップ企業まで幅広く協議をしており、良い内容となっていると認識してはいます。

Q17. N4、PSF データは日本語向けとのことですが、英語移植の難易度はどのくらいなのでしょう？ 肌感覚で構いませんので、情報いただけると幸いです。

N4 に関してはレイヤーが複数あり、それを丸ごと移植することは数年かかると考えている。肌感覚としても数年かかる。すべてのレイヤーを移植しないと使えないかということではなく、仕様自体は日本語で固められている分、ショートカット可能であり、箱自体は半年程度で完成できる。データベースの移植にどの程度かかるかは、既存の LLM 等の進展次第だと考えている。汎用的に何でも使えるものは時間がかかるが、特定の課題にフォーカスしたものであれば、1 年程度でサービス自体はできると肌感覚では感じている。

Q18. 株式分割の予定はございますか。

現時点ではありませんが、株価の状況を注視しつつ、検討してまいりたいと考えています。

**Q19. AEI のサービスに関して、既に完璧に提供できる状態でしょうか？**

特定の用途に限定することで、できると考えており、既にサービスとして稼働しているものもごございます。将来的には、道具として AEI をつかって他社がサービス開発をできるような環境を目指している。

**Q20. 投下資本利益率 (ROIC) のイメージはございますでしょうか？**

会社のフェーズによって変わると考えております。現状は、投下した資本に対して回収までのリードタイムは長くなってしまっていると認識している。具体的な数値は現時点では申し上げられないが、AEI をツールとして提供できるようになると、投下資本利益率として開示することは検討していく必要があると考えております。

**Q21. 国内のみでなく、世界向けのサービス展開の予定はございますか？**

AEI に関しては特に日本語で価値を発揮すると考えております。その分参入障壁になると考えております。ただし、ChatGPT が想定より言語非依存であり、そこを活用することで、海外でも AEI の英語版を作ることはできると考えている。具体的にプロジェクトととして進めているわけではないが、まずは日本語でしっかりと価値を出していくことを考えている。多言語対応の可能性は ChatGPT 等を見て感じている。

**<ご参考>**

- ・ 2023 年 10 月期第 2 四半期決算短信〔日本基準〕（非連結） 2023 年 6 月 14 日公表
- ・ 2023 年 10 月期第 2 四半期 決算説明資料 2023 年 6 月 14 日公表

以 上

**免責事項**

- ・ 本資料は、当社の企業説明、決算説明に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資を勧誘することを目的としたものではありません。
- ・ 本資料は、2023 年 3 月 15 日公表の 2023 年 10 月期第 1 四半期決算の内容に関して頂戴したご質問等などの内容に基づき、一部表現を修正して公表するものであります。
- ・ 本資料に記載される情報は、いわゆる見通し情報を含んでおり、当該情報は本資料公表時点における当社の見解であり、将来に関する記述につきましては、今後様々な要因により変動する可能性があることをご承知おきください。